

令和7年度（2025）

学校関係者評価報告書

学校法人穴吹学園

専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ

学校関係者評価報告書

学校法人穴吹学園 専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ 学校関係者評価委員会は、令和6年度学校自己評価に基づく学校関係者評価を実施致しましたので、ご報告致します。

令和7年8月19日

学校法人穴吹学園
専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ
学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価の目的

より実践的な職業教育の質を確保するため、教育活動の観察や意見交換等を通じて、専門学校穴吹リハビリテーションカレッジの自己評価結果を評価することを目的とした委員会を置く。

委員会は、専門学校穴吹リハビリテーションカレッジが行った教育活動及び学校運営の状況についての自己評価の結果を踏まえた本校の評価を行い、その結果を校長に報告する。

2. 学校関係者評価委員会

(委員)

松本 義人	医療法人社団	西高松脳外科・内科クリニック	理事長
藤井 保貴	一般社団法人	香川県理学療法士会	副会長
樋本 英司	一般社団法人	香川県作業療法士会	理事
田岡 知代	医療法人社団	新進会 おさか脳神経外科病院	リハビリテーション室長
中川 真人	医療法人社団十仁会	介護老人保健施設 白寿の杜	リハビリ室長
中川 弘一	香川県立香川中央高等学校		校長
平尾 浩一郎	香川県立丸亀城西高等学校		校長
松下 昌明	学校法人穴吹学園保護者会	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ支部会	支部長
亀山 健太	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ同窓会		会長

(学校教職員)

上杉 敬治	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ	校長
加藤 猛	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ	副校長兼教務部長
植野 英一	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ	副校長補佐
山下 良二	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ	作業療法学科 課長
村上 匡司	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ	理学療法学科 主任

3. 学校関係者評価委員会の実施日時

開催日時 令和7年7月18日(金) 19:00~20:00

開催場所 専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ 302 教室

4. 委員長ならびに副委員長の選出

委員長に藤井保貴氏、副委員長には樋本英司氏が立候補。全員一致で下記の委員が委員長ならびに副委員長の承認を得た。

委員長 藤井 保貴 氏 副委員長 樋本 英司 氏

藤井委員長の司会のもと、委員9名全員の出席があり、委員会の開催は成立であることを確認し、議事が進行された。

5. 自己評価結果の説明と報告（自己評価報告書参照）

香川県版一般社団法人香川県専修学校各種学校連合会様式で作成した「令和6年度自己評価報告書」をもとに、「教育理念、目的」及び「令和6年度の目標と計画」について説明し、評価項目ごとの「評価結果（総括）」、「取組状況とその分析」、「今後の改善方策等」についても説明した。

また、各評価項目の自己評価結果と自己評価結果（総括）について説明し、総括評価が「A」評定であったことを報告した。

なお、各評価項目の評定方法は、「香川県版一般社団法人香川県専修学校各種学校連合会様式」の4段階評価基準（「A」十分である 「B」おおむね十分である 「C」やや不十分である 「D」不十分である）に準じて実施している。

6. 意見交換、質疑応答

「香川県版一般社団法人香川県専修学校各種学校連合会様式」の評価項目に従い、「教育理念・目的・人材育成像」、「学校運営」、「教育活動」、「学修成果」、「学習支援」、「教育環境」、「学生募集と受入れ」、「財務」、「法令等の遵守」、「社会貢献・地域貢献」、「総括」と「自己評価結果（総括）」の順で意見交換をすすめ、各委員より下記の質問ならびにご意見を頂いた。

◇「教育活動について」

- ・国家試験不合格者へのサポートは、本人の自主性に任せているのか？学校側から積極的にアプローチしているのか？来年度の再チャレンジの意思確認は行っているのか？

▶担当教員が個別に連絡を取り、来校して学習するよう促している。昨年度の不合格者については、理学療法学科は全員が登校して学習に取り組んでいる。

作業療法学科は2名が来校して取り組んでいる。残りの卒業生は、就労している関係で来校が困難な状況である。

◇「学習支援について」

- ・退学者数が減少した要因は何か、学生のコミュニケーション能力などの非認知能力の向上が関係しているのか？

▶クラスメイトとの良好な関係や、担任との相性など、人間関係の要因が大きいと考えられる。その

意味では、非認知能力の向上を意識した取り組みも退学者減少に寄与している可能性がある。

- ・作業療法学科の2名が内定未達とあるがその理由は？

▶年齢的なことと、分野が絞り切れていないということが要因として考えられる。

◇「学生募集と受入れについて」

- ・オープンキャンパスの参加者数は減少しているのか？オープンキャンパス参加者のうち、どの程度の割合が入学に至っているのか？

▶オープンキャンパスの参加者数自体は減少傾向にある。一方で、参加者から入学者への転換率は年々向上しており、現在は5割から6割に達している。背景として、県内の高校生人口の減少、医療系職種全体の志望者減少、大学志向の高まり、そしてコロナ禍を経て、オープンキャンパスに来る前に進路をある程度絞り込んでくる学生が増えたことなどが考えられる。

- ・コロナ禍を高校時代に経験した学生たちの気質に何か変化は見られるか？

▶理学療法学科について、授業などで「やってみよう」という場面において、積極的に手を挙げる学生が減った。例えば、心電図測定の実習や体表面解剖学での触診などで自ら被験者になろうとする学生が少なくなった。

作業療法学科については、全体的に真面目で一生懸命だが、自発的に学ぼうとする姿勢の学生が減った印象。指示があれば行動できるが、指示待ちの傾向が見られる。

全体的に、マスク生活の影響なのか、声が小さく、教員を呼ぶ声も聞き取りにくいことがある。

これが実習先での挨拶やコミュニケーションに影響する可能性を懸念している。

- ・理学療法士や作業療法士の仕事内容や、就職後の生活について、高校生にはまだ十分に理解されていない。卒業後の生活の魅力なども含めてアピールする必要がある。高校へ出向いて説明会を行うことは可能だが、学校によっては個別対応が難しく、合同説明会の形式になることが多い。

- ・穴吹カレッジには美容や動物看護など多様な学科があり、他校にはない強みがある。リハビリテーション分野においても、他の専門学校との差別化を図り、「穴吹の理学・作業はすごい」というブランドイメージを確立する必要がある。とくに、他の医療系専門学校との違いを明確にし、本校ならではの教育内容や他分野との連携といった特色を、もっと強くアピールしていくべきではないのか？

▶今年度から4年制となり、理学療法学科では、視力、筋力、持久力、瞬発力、跳躍力の5大基礎体力が測定できるスポーツラボを設けて、スポーツ科学も身につけた理学療法士の育成に力を注いでいる。

作業療法学科では、発達障害の診断を受ける人数が近年、増加傾向にあり、発達領域における作業療法士の需要が更に求められることを想定して、子どもの発達を熟知した作業療法士の育成に力を注いでいる。

それらの関連情報をインスタグラムなどのSNSを活用して、より分かりやすく発信する。

- ・入学者の減少についての対策として、編入学や外国人へのアプローチなどの可能性はあるのか？

▶編入学制度は導入している。過去に問い合わせが数件あったが出願には至っていない。外国人への積極的なアプローチは言葉の壁が高い、など現時点では考えていない。

◇「総括について」

- ・ 国家試験の合格率について、卒業試験をとりいれていく考えはあるのか？
 - ▶穴吹学園全体としては、卒業させてその上で合格率を上げていくという方針である。

- ・ 医療系についての学校としてのアピールの仕方に工夫が必要ではないか？
 - ▶スクールトレーナーや支援学校への参画などを増やして、教育とリハビリテーションのコラボレーション、広い範囲での社会貢献につなげていきたい。

- ・ オープンキャンパスの参加者を確実に捕捉するために、同窓会としても積極的に関わっていきたいと考えている。

委員の皆様から賜りました貴重なご意見を参考にさせていただき、理学療法士および作業療法士養成教育の学びの場として、より良い学校作りを目指して教職員一同、日々努力して参りますのでよろしくお願い申し上げます。

以上